

学校支援を積極的に進めよう

— 共育（ともいく）で支える学校行事 —

新城市立作手中学校 P T A

1 校区及び学校の概要

作手中学校は新城市の北西部、標高 5 5 0 m の三河高原に位置する、小規模な学校である。校区の面積は 1 1 7 km² と広く、校区内には県の天然記念物に指定された長ノ山湿原をはじめ、多くの湿原があり、そこに自生する「サギソウ」は地域の人々に親しまれている。本年度の全校生徒は 5 6 名。過疎化による生徒数の減少は続いているが、校区民の学校を愛する気持ちは強く、また、近隣の小学校・高校との連携活動など特色的な教育活動を展開している。

2 研究のねらい

新城市の教育理念である共育をもとに、学校と家庭、地域が一体となって子どもたちを育みながら学校と地域の活性化を図るためには、どのような P T A 活動の在り方があるか、これまでの取り組みを生かしながら、さらに充実した活動を目指したい。

3 研究の仮説

学校行事に P T A が組織的に関わる場を設定し、P T A 会員の創意を生かした取り組みをすることで学校行事が充実したものになり、学校と地域がともに活性化されるであろう。

4 研究の方法

学校行事の中でも、特に P T A による支援が期待される行事（林業体験活動・作中祭・作中ウォーク）を中心に、昨年までの流れを生かしながら、新たな視点や工夫を加え、生徒も保護者、職員も満足感のある行事を作り上げていく。

5 研究の実践

（1）1 年林業体験

本校には、毎年 7 月頃、1 年生が学校林を使って林業体験を行う作手中学校ならではの活動がある。この活動は、地場産業である林業を体験的に理解し、地域の方や学級の仲間との作業を通して、協働の精神とふるさと作手への愛着を深めることをねらいとしている。作業は危険も伴うため、本年度も P T A 委員を中心に保護者数名が参加して行われた。

7 月 1 日、1 年生 1 3 名は県林務課の職員から間伐の必要性、山仕事の注意点などの説明を受け、前日より事前準備をしてくれた地元の方々や、関係者の協力・指導の中、間伐、運び出し、皮むき、丸太切りの作業を体験することができた。この日は 3 0 度を超える暑さだったが、学校林は涼しくマイナスイオンを浴びながら、作業に取り組んだ。「わかってはいたけど、その大変さは予想以上だった。林業の楽しさも学ぶことができた。」と、生徒達はこの貴重な経験で林業の大切さ、大変さを肌で感じることはできたのではないだろうか。



【生徒と共に皮むき作業】

(2) 作中祭

本校の文化祭「作中祭」では、ここ数年PTA委員と教職員による合唱発表を行ってきた。本年度は委員以外からも参加を募ったところ、多くのPTA会員に合唱の輪に加わっていただき、少ない練習時間ではあったが、心を一つにして盛大な合唱を披露することができた。また、作品展示でも新しく保護者に出品を呼びかけたところ、多くの方に協力していただくことができた。地域の名人を迎え、蒔絵、苔玉など、5つの講座が開設される「絆講座」では保護者も参加、生徒と一緒に作品作りに励んでいた。今年度の作中祭のテーマ「負けんな！～君の心が今叫びたがっている～」のように全力で歌い、作り、表現してくれた生徒全員から感動をもらおうとともに、PTAも積極的に合唱、展示等に関わることで「共に」作中祭を共有したという一体感を味わうことができた。



【拍手喝采 PTA合唱】

(3) 作中ウォーク

校区を北部・中部・南部の3つに分け、3年間で全ての地区を自分の足で完歩する「作中ウォーク」。ふるさとの自然や文化、その地に生活する人々を知ることがをねらいとしたこの行事も今年で6年目となった。PTA委員も交通安全指導、チェックポイントでの補助活動、昼食ポイントでの豚汁サービスのお手伝いなど、様々な面で協力することができた。



【チェックポイントでクイズを出題】

各地区から通学している生徒達は、自転車やバスを利用している者が多く、こと自分の足で長い距離を歩くことは少ない。友達や先生と初めて見る景色に感動したり励まし合ったりして歩くこの1日は、忘れられない思い出になるだろう。生徒、一人一人がふるさとのよさを感じ、見つめ直す、そんな1日になることを願っている。

6 研究の考察

学校行事を通じPTAが、生徒、教職員と共に活動していくことで、生徒の様子や成長する姿を見ることができた。また、共に活動していく中で感じた問題点を学校と連携して改善し、よりよい活動にすることができた。新城市の教育理念の「共育」にある「共に過ごし、共に学び、共に育つ」取り組みを行うことができたと考える。

7 成果と今後の課題

積極的に行事に参加することで、生き生きとした生徒の活動の様子からその成長を感じることができた。また、学校行事の目的を改めて理解し、行事を通して様々な感動を得ることができた。

今後は、同じ内容を形式的に続けていくのではなく、よりよい活動ができるよう、学校、保護者、地域、そして生徒の状況、実態に合わせて改善をしながら、生徒、学校、PTAが「共に過ごし、共に学び、共に育ち、感動、創造、貢献の活動を創り出す」活力あるPTA活動を進めていきたい。